



[令和 7 年11月12日 定例会発表要旨]

「河川の整備・変遷について」

札幌市下水道河川局 事業推進部 河川事業課長 梅澤 卓司 様

水みどり担当係長 畑野 貴俊 様

水みどり担当 内藤 様

みなさんは、札幌市内に全部で何本くらいの川が流れているのかご存じでしょうか。実は約 600 本もの川が流れています。これらを全てつなげると約 1,200km、直線距離にして札幌から大阪まで 到達するほどになります。先日の定例会では、こうした札幌の河川の状況や、その成り立ちについてお話をさせていただきました。



■扇状地と人々の暮らし

札幌のまちは、豊平川が形成した広大な扇状地の上に成り立っています。かつて扇状地の末端 からは「メム」と呼ばれる湧き水があふれ、そこから流れる小川にはサケが遡上し、人々の生活の場となりました。また、鉄道や道路が未発達だった明治の初め頃において、川は物資や人を運ぶ 重要な「交通路」でした。当時は橋を架けても洪水ですぐに流されてしまうため、冬には人工的 に水を凍らせた「氷橋（こおりばし）」を架けて川を渡るなど、先人たちは厳しい自然環境の中 で、川と共に生きる知恵を絞っていたのです。

■治水事業と用水路の歴史

札幌のまちづくりの歴史は、水害との闘いの歴史でもあります。札幌北部の湿地帯で農業を可 能にするため、明治 19 年（1886 年）頃から人工河川として「新川」の掘削が始まりました。ま た、石狩川の蛇行が原因で頻発した洪水を防ぐため、約 16 年の歳月をかけて川を直線状にする 「捷水路（しょうすいろう）」工事も行われました。現在も残っている石狩川の旧河川部分は「茨 戸川」とよばれています。ま た、定例会では具体的な変遷の例として「創成川」と「安春川」も取り上げました。創成川 は、慶応 2 年（1866 年）に大友亀太郎が掘削した「大友堀」を起源とし、その後、寺尾秀次郎による北への延伸、吉田茂八による南への延伸を経て一本の川となりました。「創成川」の名は、明治初期に架けられた「創成橋」に由来するとも言われています。また、北区を流れる安春川は、 明治 23 年頃（1890 年頃）、水はけが悪く農業には不向きな土地であった新琴似周辺の排水のため に掘削したことが始まりともいわれています。しかし、この安春川は都市化により一度は枯渇し、「水無し川」とよばれた時期もありました。現在は、創成川水再生プラザ（下水処理場）からの高度処理水を導水することで、「人工的に」復活させています。これは、現代の技術が歴史ある川の再生に貢献している好例と言えるでしょう。

■災害の教訓と多自然川づくり

昭和 56 年（1981 年）の大水害や、平成 26 年（2014 年）の大雨被害など、札幌は幾度も大きな水害に見舞われてきました。これらの教訓から、現在は公園や学校のグラウンドに雨水を一時的に貯める「雨水貯留施設」や、モエレ沼のような「遊水地」の整備を進めています。また近年は、治水だけでなく、生き物が住みやすい「多自然川づくり」も重視されています。例えば、治水のために川に段差（落差工）を設ける際、かつては魚にとっては遡上できない高い壁になってしまうことがありました。しかし現在は、階段状の「魚道」を整備し、サクラマスなどの魚が階段を一段一段のぼるように上流へ移動できる工夫をしています。人と自然、そしてまちが調和する川づくりを目指しているのです。川の歴史を紐解くことは、その土地の発展の歴史そのものを知ることです。今後も先人たちが守り育ててきた川の環境を保全しつつ、災害に強く、そして市民のみなさまに親しんでいただける川づくりを進めてまいります。

—学校資料—

手稲中央小学校が移転を予定しており、資料室の資料の移転を検討しているとのことで、11月7日に、沖田会長、乙黒、林会員が訪問視察しました。対応いただいた教頭先生によると、移転は3年後の予定で、当会で対応していただければ幸いとのことでした。

また、11月28日沖田会長をはじめ会員4名が手稲北小学校を訪問し資料室の視察を行いました。

—学校出前講話—

11月25日に、手稲西小学校4年生45人に三国、林会員が出前講話を行いました。

三国会員は、滝見町にあった鉱山住宅での生活、遊びについて（5～9歳）、当時の学校の様子、共同防空壕への避難（10～12才）、中学時代（学校生活、15歳で手稲区残住宅から稲穂に転居）の話を行ないました。

林会員は、手稲山について、また「手稲鉱山」の歴史及び現在行っている坑内水処理についての話を行ないました。

最後に8名の生徒から質問がありました。

次回定例会 令和8年 1月14日(水) 18時15分～ 区民センター3階視聴覚室

発表内容 「手稲の街の歩き方」 手稲郷土史研究会 会員 杉浦 正人

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第212号 令和7年12月10日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菊池博行・伊藤政克

❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一 方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinenorekishigmail@gmail.com 担当 菊池 博行